

ひるかの開拓の父 辻村徳松翁

第2次世界大戦敗戦後、引揚げ・復員者による日本の過剰人口問題は深刻であった。この戦争により米の生産高は戦前の半分に落ち、食糧自給率は著しく低下していた。そこへ満州など海外に移住していた660万人の日本人が引き揚げてくれば、食糧不足になるのは必定であった。また、戦災によって国内の鉱工業部門は壊滅的状況にあり、余剰労働力を吸収するだけの能力が無かったので失業者が大量にでた。

この食糧不足と失業者問題という二つの問題を一挙に解決する『緊急開拓事業要領』という施策が昭和20年11月9日に施行された。また昭和21年には『自作農創設特別措置法』が制定され、未開墾地の強制買収という手段で、用地の買収権を確保した。

高鷲では蛭ヶ野地区508町歩、上野地区440町歩、切立地区230町歩の開墾が割り当てられた。蛭ヶ野開拓地では、大日開拓団員19世帯、郡上村開拓団員64世帯、琿春高鷲村開拓団員11世帯の94世帯が入植した。特に蛭ヶ野地区では満州の開拓団毎に入植したので代表者の下に団結力が強かった。

昭和21年10月11日、天皇が岐阜県下の被災状況を視察された、郡上村開拓団団長代理で蛭ヶ野地区に入植した辻村徳松翁が、満州からの引揚者を代表して奏上書を読み上げた。奏上書は引揚げの悲劇、満州で結実しなかった開拓の情熱を『再び国内の開拓に傾ける』ことで満州移民の体験を積極的に位置づけ、開拓への情熱を協調した。辻村徳松翁はさらに蛭ヶ野へ入植した昭和22年2月2日夜に大日名物を障子紙に書き残している。



辻村徳松翁顕彰碑

- 一、大日名物 萌え立つ広野、山の眺めに山紅葉
- 一、大日名物 紅ます、天漁、わさび椎茸、わらびのり
- 一、大日名物 森林鉄道、除雪トラック、トラックター
- 一、大日名物 バター、チーズ、乳に蜂蜜、ソーセージ
- 一、大日名物 働く青年、初心な娘に、良い子供

また、辻村徳松翁は、賀川豊彦氏の詩から引用した「いざ友よ 共に築かむ 日留ヶ野に 乳と蜜の流るる里」を表し、これが大日開拓団のスローガンとなった。辻村が目指した蛭ヶ野は自然豊かな教育村酪農を中心とした村といえよう。

辻村徳松翁は、昭和23年に病死するが『乳と蜜の流るる里』というスローガンは蛭ヶ野地区の住民に残り、昭和57年に住民の手によって蛭ヶ野白山神社境内に顕彰碑(上写真)が建てられた。

ひるがの開拓の歴史 福手豊丸翁

入植当初の開拓民の生活は、食糧が無く『食わず食わず』の上、右写真のようにそ手開墾のための苦労は並大抵のものでなかった。

昭和 21 年 11 月、大日開拓団結団式で山下勘治団長は『この蛭ヶ野から一人も飢える者はださない、そのかわり一人の千万長者もつくってはならん』と大号令を出され、現場指導者の福手豊丸翁は『弱肉強食では無く、互いの心が結ばれた村をつくる』という決意され、「ナニクソ(堅忍不拔)、オカゲサマ(報恩謝徳)」の凌霜魂で蛭ヶ野地区の理想郷づくりに邁進された。

蛭ヶ野には、大正 8 年に揖斐郡から移り住んだ 6 世帯の農家があった。その農家も引き揚げてしまい、蛭ヶ野高原は飛騨との郵便物や荷物を中継したり炭焼きの仕事で生計を立てている家が 4・5 件あっただけで一面は林や原野であった。

昭和 15 年になり八幡の凌霜塾が、蛭ヶ野高原の土地を 28 町歩買収して大日道場を開いた。福手豊丸翁は学校の教師を辞めてこの大日道場の職員となった。以来、大日道場の経営方針と凌霜塾の精神をもとに蛭ヶ野開拓に邁進され、蛭ヶ野高原を大きく発展させた。

郡上村開拓団は指定された蛭ヶ野地区に入植し、以前からあった凌霜塾大日道場と共同して蛭ヶ野開拓に当たった。昭和 23 年大日開拓団と上野開拓団とが合併して大日開拓農協となり、さらに昭和 32 年切立開拓農協とも合併して大日山麓開拓農協となった。開拓農協は、開拓団員の経済統制・営農・生活改善・インフラ整備を指揮するなど、生活をする上での比重は大きかった。

このようななか、福手豊丸翁は、「開拓団員の家族の生活を一身に背負って行政や近隣住民との折衝で、ムラ社会でのよそ者の悲哀を痛切に味わいながらの精神的な労苦に耐えられたのは凌霜魂のお陰である」と平成 26 年 7 月 27 日の岐阜新聞の朝刊で語っていた。さらに次のようにも述べている。

「開拓に反対した村民も、入植後は自分達を差別しなかった。今のひるがの開拓団だけが築いたわけでない。その後定住してくれた人も新しい考え方をもち込んでくれた。古い人も新しい人も、持てる人も持たざる人も、みな友として共に新しい村を築けた。緑豊かな乳と蜜の流るる里は、友愛の心が花開かせたかもしれない。」

現在、三白産業の成功で高鷲村はかつての僻地山村から岐阜県指折りの観光地であり農業先進地、スキーのメッカとして東海地方や近畿地方にその名を知られている。これは今は亡くなった故辻村徳松翁及び故福手豊丸翁の功績が大きい。ここに改めて御礼を申し上げたい。

『有難うございました』

会員募集

高鷲文化財保護協会では新入会員を募集しています。

特典は『会報高鷲の文化財』

『研修旅行(近隣県、郡上市内など)』

『古文書よもまい会』

会費は 2000 円

申し込みは：高鷲開拓記念館 上村 強(Tel 0575 - 72 - 6321)



焼き畑による開墾風景



凌霜塾大日道場があった場所